



諸熊奎治先生 文化功労者に



諸熊奎治先生（現 京大福井謙一記念研究センター シニアリサーチフェロー、分子研名誉教授）におかれましては、この度、平成24年度文化功労者の栄誉を受けられました。

諸熊先生は、昭和32年京都大学工学部工業化学科をご卒業後、同37年京都大学大学院工学研究科燃料化学専攻博士課程を単位修得退学し、同37年同大学工学部燃料化学科福井謙一先生の研究室に助手として採用され、同38年に京都大学より工学博士の学位を授与されました。昭和39年米国コロンビア大学客員助教授、博士研究員に採用され、米国ハーバード大学博士研究員、米国ロチェスター大学助教授、准教授を経て、昭和46年から同大学教授に昇進されました。その後、同51年分子科学研究所教授に着任されましたが、先生は強力な研究グループを直ちに立ち上げられると共に、同研究所計算センター長を兼務され、我国の理論化学・計算化学の発展に多大な功績を残されました。平成5年より米国エモリー大学教授に転じられ、化学科教授、チェリー・エマーソン科学計算センター長としてご活躍の後、平成18年には京都大学福井謙一記念研究センターにリサーチリーダーとして着任され、本年度から

はシニアリサーチフェローとして、現在も若者顔負けの研究活動を展開しておられます。また、平成12年より国際量子分子科学アカデミー会長を二期六年間に渡って務められ、文字通り世界レベルで量子化学、理論・計算化学の発展に大きな足跡を残してこられました。

今回の文化功労者のご顕彰は、諸熊先生の永年にわたる「複雑分子系の理論研究の発展に対する多大な貢献」に対するもので、量子化学に基き統計性も考慮した理論化学・計算化学における世界的な業績が認められたものです。先生は独創的な考えにより、新しい理論的方法を開発・提案され、それに基づいて理論化学・計算化学を力強く推進され、分子の構造・機能、化学反応過程の微視的理解と予測を達成されました。例えば、相互作用エネルギー分割法やオニウム法の開発、エネルギー勾配法の革新的な展開を通して、複雑な分子の構造と機能、反応過程を解明し、分子設計に結び付けられました。最近では、電子状態理論と分子動力学理論を融合させた方法により、フラーレンやカーボンナノチューブなどの炭素ナノ構造体の生成機構を提案されました。いずれも、複雑な化学事象を明快に解き明かし、予測につなげる輝かしい業績として、世界的な注目を集めております。

これらのご研究に対し、平成4年日本化学会賞、平成5年世界理論有機化学会のシュレーディングメダル、平成17年アジア・太平洋理論および計算化学会の福井メダル、平成20年恩賜賞・日本学士院賞、平成22年瑞宝中綬章のご受章に続く、今回の文化功労者

のご栄誉は、私ども分子科学分野の研究者にとりましても、大変喜ばしいこととあります。先生は今回のご顕彰にあたり、「このたび、文化功労者に選ばれましたことは、大変名誉なこととあります。今までご支援いただきました国内外の多くの方々から感謝申し上げます。50年間励んできた理論化学・計算化学という基礎研究の分野が、多くの研究者の努力によって、化学結合の本質を明らかにするにとどまらず、化学の幅広い問題の解決に役立つとともに、科学技術にも大きな寄与をするようになったことは、大変喜ばしいこととあります。これからも研究者として、基礎研究を通じて社会のために尽くしたいと思っております」と語っていらっしゃいます。先生の一層のご発展を祈念しております。

（京都大学福井謙一記念研究センター
リサーチリーダー 榎 茂好 記）